

# 青山

# 梅窓院通信



1 大樹寺本尊一光千体阿弥陀如来様の前での読経。2 徳川第十三代家定公が再建した大樹寺本堂は間口十五間、奥行十三間。  
3 家康公直筆の南無阿弥陀仏の六字名号。4 本堂前での記念写真。大樹寺第63世 住職にもご一緒いただいた。  
5 尾張徳川家の葵紋。徳川御三家である水戸、紀州の葵紋とは少し違う三ツ葉葵になっている。6 上人の徳川家系譜の説明に聞き入る皆さん。

## 住職挨拶

梅窓院第二十五世

### 中島 真成



皆さんこんにちは、お変わりなくお過ごしでしょうか。早  
いもので今年も秋のお彼岸を迎える頃となりました。

さて、今号は梅窓院の団体参拝で訪れた名古屋・岡崎の  
大樹寺さんで表紙を構成しました。大樹寺さんは若かりし  
頃の徳川家康公の命を救った寺として有名ですが、梅窓院  
とも縁のあるお寺です。以前、当院のお坊さんとして各種行  
事や法事で読経いただいた 上人が勤めているお寺  
で、その 上人の奥様も梅窓院広報部に長く在籍した旧  
姓・ さんですから、ご夫婦二人とも皆さんご存じ  
かと思えます。今回の団参には 夫妻に加えて四歳にな  
る元気な双子の息子さんたちも合流してくれました。

梅窓院は先々代から全国の浄土宗寺院の子弟を預かる  
学寮を有していたこともあり、今でも全国のお寺さんの子  
弟にお手伝いをいただいています。そうした方々とのご縁  
は、当院での勤めを終えて自分のお寺に戻られてからも続  
いています。今回の団体参拝も 上人いらしての企画で  
した。

さて、この五月に当院が墓荒らしに遭いました。墓石が倒  
されるなどの被害を受けましたので、警察に届けてありま  
すが、まだ解決していません。これを機に夜間の防犯カメラ  
を設置することにいたしました。

この夏の七月のお盆の最中に郡上八幡に行ってきました  
た。郡上八幡観光協会六十周年記念式典にお招きいただい  
たからです。昨年の団体参拝では、この郡上八幡と下呂温泉  
を訪れましたが、何度行っても郡上の自然の美しさ、空気の  
美味しさは格別で、それこそ柵経の合間を縫うような強行  
日程でしたが、今回もリフレッシュさせていただきました。

最後になりましたが、九月のお彼岸でのライブは行わな  
いことにいたしました。写真展は開催いたしますので、皆様  
のご応募をお待ちしています。

九月彼岸の秋景色

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

歳 時記の〈秋〉の部を繕いて、その最初の「時候」欄の第一項が「秋」である。その季語欄に、高秋・白秋・商秋・素秋・金秋・凜秋といった秋の別称が並ぶ。高秋とは、天空高く澄み渡る秋のことである。白秋とは、五行説で白を秋に配当することからの異称で、五天帝の一人の白帝も秋を指し、五

声説の商も秋に配するから白商・商秋ともいう。素秋の素も白という意味で、これも白秋に通ずるのである。金秋も五行説の金が秋に当たることからの称であり、別に金商ともいう。そして凜秋とは、心が引き締まる凜とした秋ということになる。

なお三秋というのは初秋・仲秋・晩秋のことであり、九秋といえは秋三か月九十日間(九旬)のことである。その秋とは立秋(八月八日頃)から立冬(十一月八日頃)の前日までということになるが、俳句の季語の世界は現在でも依然として旧暦思想であり、今日、九月・十月・十一月の三か月を秋の季節と理解して生活する現状とは、いささかともずれてしまうこともある。

とはいえ、きびしい残暑を終えて新涼の風とともに迎えるのが秋の好季である。

今回は、秋九月のお彼岸、後の彼岸時分の秋景色を眺めて、身心を澄明な新

秋・上秋・首秋・早秋の爽やかさの中に置いてみたい。

秋口は、温度差が多く体調の管理には気を付けたい。もともと季節の変わり目は、気候・時候が安定するまでとくに注意しなければならぬが、暦の上の二十日、二百二十日の頃の日本列島はいわゆる野分、台風季節でもある。そしてまた九月も半ばを過ぎると秋霖の季節となり、しょぼしょぼと降る秋の長雨ということになる。そうした九月の天気具合の中で、日本人の身体に加減や心模様を秋という季節に落ち着かせるのが、秋彼岸の時節柄ということにもなるか。

陸橋の空の白雲秋彼岸 (舟月)

石原舟月は、陸橋という平地よりも目線の高いところから、さらに天高い秋の白雲を眺めているのである。

さて私たちは、秋の景色や気配を秋の色・秋の光、つまり秋色・秋光で感じる。秋景色を目で眺め、目で捉えて秋容・秋望のありさまに秋の気分を味わうのである。たとえば夏目漱石は「一山や秋色々の竹の色」と作句し、松村蒼石は「秋光のつぶさに光る日影かな」と作句している。まさに秋のうるわしい色には、秋のうるわしい光り輝きがあるのである。

また、秋という季節を耳で聞くと、秋声・秋の声、あるいは秋の音ということになる。たしかに秋といえは、秋に鳴く虫の声・虫の音を想起し、蟋蟀や鈴虫、松虫の鳴きすだく音色がなつかしい。しかしここでは、秋気澄み切った、秋気静まり返った秋の声・秋の音を聞き分けてみたい。相生垣瓜人は「秋声を聴けり古曲に似たりけり」と趣き深く作句して、けり・たり・けりの句音にも配慮している。

清く澄んだ秋の空気、それが秋風・秋の風にそよいで、秋天・秋の空へ向かって吹き行く。天高し・空高し・秋高しである。そこに秋雲・秋の雲も白く、高くあるというわけである。

大仏の大きさ知れず秋の風 (子規)

正岡子規は明治二十八年十月下旬、東大寺や薬師寺、法隆寺などを巡る奈良旅行をしている。有名な「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」の句想をもたらしただのもこの折であるが、私は右に挙げた句も大好きである。ほかに、「古里や小寺もありて秋の風」「秋風や皆千年の物ばかり」など、奈良旅行の中の秋の風を作句しているが、私はなんととっても東大寺の大仏へ寄せたこの一句がとてもしきりなくはかりしれない。(大正大学教授

六月・七月の

行事報告

第56回 念仏と法話の会 6月5日(火)



本堂での能楽奉納。

開山忌法要 能楽奉納 6月9日(土)



盂蘭盆会法要 7月13日(金)



郡上おどり in 青山法要 6月30日(土)

地下2階 祖師堂にて



# 彼岸寄席

午後1時～



三遊亭 歌る多 師匠

## 三遊亭 歌る多 プロフィール

1962年荒川区生まれ。1981年三遊亭圓歌師匠に入門。  
 1993年女性初の真打ち昇進(女流粹)。  
 2000年女流粹撤廃され、男性と同様の真打ち扱い。  
 寄席・落語の会から、講演会・司会業、コラム執筆など活動の場は幅広い。  
 2010年6月より落語協会理事・演芸家連合常任理事就任。  
 前座は 三遊亭 ございます さんです。



# 秋彼岸会法要

午後2時～

※お塔婆の受付は1階観音堂にてお済ませください。

■塔婆申込み方法…同封のがきを使い9月15日必着でお申込みください。塔婆回向料は1本7000円とさせていただきます。

■お支払方法……同封の振込用紙で郵便局にてお支払いいただくか、当院受付までお持ちください(銀行でのお振込みはできません)。

### 本年度のお彼岸ライブは中止とさせていただきます。

秋彼岸写真コンクールは例年通り開催いたしますので、お参りの際には是非お立ち寄りください。なお、写真コンクールへの参加は9月15日必着ですので、ふるってご参加ください。

### ～お檀家様へお願い～

- お彼岸前後の土・日・祝日はお参りに来られる方で境内が大変混みます。ご来寺の際は電車等、公共交通機関をご利用ください。
- 9月19日～25日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願いいたします。

## 秋彼岸に寄せて

「彼岸」とは悟りの境地の事で、語源はサンスクレット語の「波羅密多」を漢訳した「到彼岸」からきています。

「彼岸」は雑節の一つで、太陽が真東から上がり、真西に沈んで昼と夜の長さが同じになる春分・秋分を中日とし、前後各三日を合わせた七日間のことをいいます。また、この期間に行われる仏事のことを「彼岸会」といい、曆の上では最初の日を「彼岸入り」、最後の日を「彼岸明け」といいます。俗に、中日に先祖に感謝し、残る六日は、悟りの境地に達するのに必要な六つの徳目「六波羅蜜」を一日に一つずつ修めるためとされています。

煩惱と迷いに満ちたこの世をこちら側の岸【此岸】といい、六波羅蜜の修行をする事で、煩惱を脱した「悟りの世界」すなわち向こう側の岸【彼岸】の境地へ到達することができるといわれています。彼岸会とは、お寺で故人の供養すると同時に「六波羅蜜」の教えを会得する大事な行事です。他の仏教国には見られない日本独自の行事ですが、「盂蘭盆会」や「施餓鬼会」と共に、仏事の中で最も一般的に、そして盛んに行われています。

さて、お彼岸を迎えるにあたり、事前準備としてご自宅のお仏壇、仏具の掃除をしましょう。また故人にちなんだお花や果物・菓子をお供え致しましょう。

そしてお墓参りに行ったらまず、お墓の清掃をしましょう。雑草が生えていたり、ごみが散らばったりしている、ご先祖様に申し訳がありません。本来、お墓というのは各家が代々お守りし、大事にお手入れをするものです。普段、ご遠方やご多忙といった理由でなかなかお墓参りに来られない方でも、せめてお彼岸等の節目にはご家族や身近な方々と一緒に墓参すると共に、菩提寺のご本尊さまに手を合わせてみてはいかがでしょうか。

(法務部)



名古屋・岡崎

# 大樹寺

この春に梅窓院の団体参拝で訪れた岡崎の大樹寺、今回はぶらり門前膝栗毛コーナーとしてこの名刹を紹介いたします。表紙と合わせてお楽しみください。



大樹寺の本尊阿弥陀如来座像は平安末期の木造で愛知県の文化財。光背の千体の阿弥陀仏に囲まれ慈悲深いお顔を迎えてくれました。

梅窓院は東京の浄土宗寺院の一つですが、浄土宗の寺院は江戸時代にその数も、宗教界における影響力も一気に強いものになりました。それは天下を平定した徳川家康公のご先祖の菩提寺、大樹寺が浄土宗だったことから始まっています。

おんりえど 汚れているこの世をいとい、  
厭離穢土 欣求浄土 清らかな浄土を求め

これは家康公が終生の座右の銘にした言葉ですが、この言葉こそ、戦さに敗れ、先祖の墓の前で自害しようとした若かりし頃の家康公を止め、戒めた大樹寺第十三世登誉上人の一言でした。大袈裟に言えば、この一言があつての徳川家、そして浄土宗なのです。

昨年の大河ドラマ「江 姫たちの戦国」では家康公や二代將軍秀忠公がしばしば登場し、世の安定を図る為の戦という二人の視点が強調されていました。まさにその想いが太平の世となった江戸時代を作り、その徳川家に庇護された浄土宗はその立場を確立できたのです。

さて、この大樹寺には徳川家とその先祖である松平家ゆかりの品々や遺跡がたくさん残っています。中でも徳川の歴代將軍の位牌は各將軍のそれぞれの



上／大樹寺の末寺である蓮性院の副住職で、以前梅窓院に勤務していた上人に案内をしていただきました。  
下／宿泊先には 上人のご内室で元梅窓院の職員だった旧姓さんと双子の坊っちゃんも顔を出し、参加者の人気をさらっていました。

身長と同じ高さで作られていて一見の価値のあるものです。また、秀忠公とその正室、江姫の位牌が並んで祀られているのも大樹寺だけです。

「上人の詳しい説明で徳川家の歴史や家康さんのことがよくわかったわ」(さん)  
「家光公がこの大樹寺を大事にしたのは、きっとお祖父さんへの恩返しでもあるのね」(さん)

こうした感想を伺いましたが、参加された皆さんは 上人との久しぶりの対面に大喜び。以前お経を読んでもださっていた美声での説明に聞き入られていました。また大樹寺さんも他ならぬ 上人の前の職場の団参とあって、 住職にお話をいだけたうえに特別拝観を許していただけるなど、いたれり尽くせりの団参になりました。

また、翌日には大樹寺の西にある知多半島東浦の於大まつりを見学、於大のお墓のある傳徳院の 貴主ともお会いし、完成したばかりの新東名を 通って帰京する盛りだくさんの一泊二日でした。



三代徳川家光公が建立した大樹寺山門。写真は本堂側から見た山門で約三キロ先にある家康公の居城だった岡崎城が臨めるようになっています。

アクセス

JR岡崎駅、または名鉄東岡崎駅から大樹寺行きバスで終点下車 徒歩10分。車は東名高速道路岡崎インターより約20分。



於大行列が歩く明徳川での記念写真。満開の桜が綺麗でした。



大樹寺の由緒来歴をお話して下さった大樹寺第六十三世 温厚篤実なお人柄でその優しい説明が印象的でした。

貴主。



傳通院の団体参拝で来ていた石屋さんの彩石さんとも合流。彩石さんは梅窓院でもお手伝いしていただいています。



位牌堂に祀られる徳川歴代将軍の位牌。このほかに松平家八代の位牌も祀られていました。



式典後、東浦町と縁の深いオグウェニア共和国大使との記念撮影。



於大姫の神輿に乗る今年のミス於大姫。この女の子の他にも沢山の可愛い女の子が於大姫に扮します。

於大まつり

徳川家康公の母である於大を、その生まれた東浦町が町をあげて讃えるおまつりで、小さい女の子が於大姫に、有志が松平広忠公（於大の夫で家康公の父）をはじめ、多くの武将の姿となり於大行列・水野家行列をしている。行列のゴールとなる於大公園は各種イベントや大会、お茶席、お店も出る賑やかなおまつり会場となっていて、近郊はもちろん、東海地方一帯からも見学者が集まってくるという。毎年四月の第三週の土曜日に開催されている。



◀於大まつり会場で 貴主に紹介された中島住職。

▼毎年この於大まつりにご招待され、メイン会場の壇上で挨拶をされている傳通院 貴主。



於大まつりの行列はスタート地点でのテープカットで幕を開ける。右端が傳通院 貴主。

本紙にも俳句のコーナーがありますが、最近はテレビの俳句番組がなかなかの人気だそうです。五七五の十七文字からなる俳句は日本の伝統文芸で、色々な情景や事柄、そして想いが込められる身近な趣味のひとつです。

今回の囲む人々は、本紙俳壇の選者をお願いしている大崎紀夫さんにご登場いただき、俳句へのアプローチの仕方について伺いました。

◆大崎先生には本紙「青山俳壇」で大変お世話になっていますが、本日もよろしくお願ひいたします。

大崎 はい、こちらこそ。

俳句は誰でも、いつからでもできますが、誰でもできるから易しく、そして難しい(笑)。

◆そういうものですか。では、俳句との出会いから伺わせてください。

大崎 高校生の頃、与謝蕪村の春風馬堤曲が好きでした。そして、40歳代は久保田万太郎の全句集が座右の書でした。45歳で俳人の写真集の編集に携わり、55歳の時に俳句雑誌と短歌雑誌の編集長になりました。これは朝日新聞社時代の話。そして60歳でウェブ俳句通信を『俳句朝日』の通信誌として出して、数年後に独立しました。そして今は結社の主宰者です。ちなみに最初に作った句はいまでも覚えていて、

草いきれ少年獣となりて過ぐ  
水死人出て夏ぐみの淡さかな

「なんか、寺山修司みたいだ」と言われたのも覚えています(笑)。

◆経歴を拝見すると朝日新聞社時代の後半から一気に俳句に関わられていますね。それ以前は釣りや旅、そしてインドの本を書かれていますね。

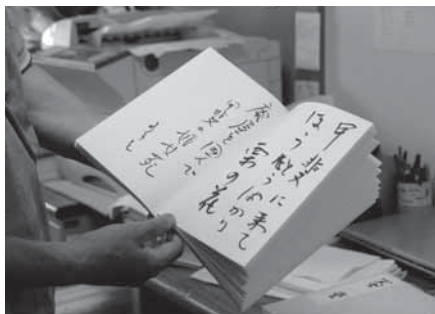
大崎 はい、朝日新聞社勤務の頃は時代が良かったこともあり、仕事もしましたが、随分好き勝手をさせてもらいました。

いまインドの本の話が出ましたが、私の句は結構仏教的かもしれませぬ。食中毒で死んだお釈迦さまがとても人間的で親近感を持っていますし、我を捨てるという仏教の悟りは松尾芭蕉の私意を捨てよにも通じ、私自身の句も、主観や自己主張を入れずに淡々と詠むことを心掛けていますからね。

◆そうですか、大崎先生は仏教がお好きなのですね。次に俳句の始め方を教えてください。

大崎 そうですね、先ほど誰でもできるから易しく難しいと言いましたが、作るだけなら誰でもできます。大袈裟に言えば季語の入った五七五、もっと言えば五七五の文字が並べば俳句です。ですが、自分の句を誰かに評価してもらいたい、もっと違う詠み方があるかな、と思いつくと投句したくなります。新聞雑誌、テレビはもちろん今はインターネットにも投句できます。

でも、俳句は人と一緒にやるのが上達の早道でもあり、楽しみでもあります。そのためにはカルチャーの俳句教室に入るとか、結社の句会に参加するとかがいいと思います。ただし結社には



大崎先生が師と仰いだ森澄雄先生と画帳まわしをされた画帳。右が森先生の句、左頁が大崎先生の句で「のり」と記されている。

それぞれの考え方がありますから初めは見学がいいですね。

◆なるほど、間口は色々ですね。インターネット句会もあるのですか。

大崎 はい、ですが、私は「俳句は座の文芸」だと思っていますから、顔を直接合わせることを勧めます。画面だけでやりとりするのは若い人に多いのですが、意見が過激に陥るなど少々危険を伴うようです。

◆やはり顔を見ながらですね。

大崎 俳句は基本的に先生となる選者との感性や相性の善し悪しが大切になります。最初は一人で作って一人で楽しんでいても、投句やカルチャーセンター、そして句会に参加したりすると、そこでの選者や講師、主宰への興味が出てくる。

◆一人で楽しみ始めても、自分にあった先生や仲間が欲しくなる。

大崎 そうです。俳句には色々な種類があります。

自然を詠む風詠句、日々の暮らしや出来事を詠む人事句。季語が入る伝統俳句、季語も五七五も規定しない前衛俳句。加えて境涯派、人間探求派など俳句のテーマも様々ですから、俳句には色々な見方があります。いま、俳句の結社はおそらく700~800ありますが、その数だけの見方が、個性があると言えるでしょう。

◆結社と聞くと秘密結社という言葉が浮かびますが、仲間のことですね。

大崎 はい。結社は会員の作品を載せる定期的な結社誌を発行し、吟行という俳句を詠む旅行などを行ったりします。

◆俳句と一緒に楽しむグループを結社といい、必ず主宰者がいる、ということですね。

大崎 そうです。俳句の世界は結社を中心に成り立っているのが現状です。そして結社の主宰者の俳句思想がその結社の魅力になります。ちなみに私は、「自分と自然が向き合った時の想いを淡々と述べよう」ということで、風詠句を多く作り、結社誌『やぶれ傘』を発行しています。

繰り返しますが、俳句を始めると自然と結社への関心が湧いてきます。ですから、結社誌を取り寄せたり、句会を見学したり、色々な先生の句や会員の詠む句、句会の様子などに触れて、自分に合う先生、結社を見つけることが大切です。

◆なるほど、俳句の世界は色々奥深いですね。本日はお忙しい中ありがとうございました。

おおさきのりお 昭和15年埼玉県戸田生まれ。38年東京大学仏文科卒、朝日新聞社入社。平成7年『俳句朝日』創刊編集長。8年『短歌朝日』創刊。12年朝日新聞社を定年退職。『ウェブ俳句通信』創刊編集長。13年結社誌『やぶれ傘』創刊主宰。句集に『草いきれ』『椶櫚の実』『竹煮草』『遍路』ほか。著書多数。

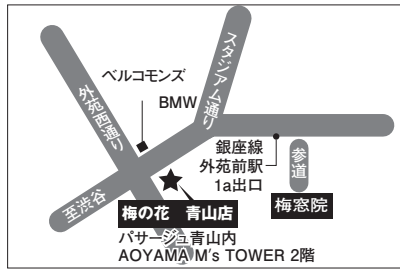
梅の花 青山店

今は全国に七十店舗展開している梅の花。福岡県八女市出身のオーナーが体に優しい料理を広めたいという思いから開店した、美味しい八女茶も頂ける豆腐と湯葉のお店。店内は落ち着いた雰囲気、ゆつくりと会話を楽しみながらヘルシーなメニューを味わえます。

温める水に鹿児島県垂水市にわく寿鶴温泉水を使う看板料理の湯豆腐は、温まると透き通っていた水が真

つ白になる絶品。美肌効果のある温泉水だけでもいただけれます。白身魚のすり身を湯葉で巻いた湯葉揚げも人気の品で、レモンの香りとともにふわっとした食感が口にひろがります。また、他店舗には無い青山店オリジナルでベジタリアン懐石も魅力のひとつです。

個室は平日三六〇〇円、土日四六〇〇円のコース料理から利用できます。人数は二名から四十六名まで。懐石、ランチメニューも豊富なので、法事後の席以外でも、お参り後の気軽な会食にもお勧めです。



営業時間／[昼] 11:00~16:00(L.O15:00)  
[夜] 17:00~22:00(L.O21:00)  
住所／東京都港区南青山2-27-18  
TEL／03-5412-0855



▲店一押しの花膳。  
名物豆腐しゅうまいを含む15品の料理が楽しめる。



▼落ち着いた雰囲気の広間。



青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎紀夫

- ◎特選  
○春雷の一つ大きく明け初むる

◎入選

- 高杯に灘の吟醸初鯉
- エッチラと八十路坂越す立夏かな
- 銀髪となりたる出会ひ沙羅の花
- 梅雨の日の並木に雨の雫かな
- 扇風機止まれれば雨の音たかし
- 紗の着物日差しをうけて涼しげに

◎選者詠

○海に雨にせあかしあの花に雨

大崎 紀夫

（ワンポイントアドバイス）

今回のわたしの句（海に雨にせあかしあの花に雨）は中七下五が句またがりになっています。（せあかしあの花）の花が下五にまたがっているわけです。（春昼の石ころ乾きあるを蹴る）などというのも作っています。

これは五七五の調べを少し崩し、全体として調べをまとめていく手法で、いつもいつも五七五をやって、少し飽きたらと思ったときにはこんなテもあつたな、と思いついてください。

投句募集

今回は「秋の季語」でご自由にお詠みください。11月7日を締切、平成25年1月発送の『新年号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募ください。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38  
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡ください。

ウェブ編集室  
電話03-5368-1870

第四十八回  
食は命

武鈴子  
食養研究家

風邪予防  
レンコンご飯で

ハスは、葉柄に酸素を送るための通気孔として10個程度のあながあります。この独特の形を「見通しがきく」として、お目出度い席での料理によく用いられます。

泥の中で育つが泥に汚されることなく育ち、また水中に漂いながら、水に沈むことなく美しい花を咲かせます。昔の人はこのようなハスの習性から、ハスに人の体の濁った体液をきれいにし、水分の代謝をよくする作用があるのではないかと考えました。

ハスの効能効果について、日本の食物全般について、その性質、能毒、食法などを詳しく説明する『本朝食鑑』には、「精神不安や発熱による口の渴きを解消し、胃を健やかにして、胃の塞がりやをなくし、酒毒、蟹の毒、産後のオ口(悪血)を散らす」と記載され、また、ハスは心臓、脾臓、循環器疾患を統率しているので、四季を問わず食べるべきで、人の心を和ませる食べ物である。…と書かれています。

現代栄養学でも、ビタミンCを豊富に含み、美肌、風邪予防、血行促進に働く「縁起のいい野菜」とされています。秋は風邪の季節でもあります。新レンコンが出始める秋、歯ざわりのよいレンコンご飯で「未病」対策しませんか。

①レンコンは皮をむき縦四つ割にして、2mm幅に切り、酢水につけてアク抜きする。②青シソは細切りに。③米は炊く30分前に洗って水切りしておく。④炊飯器に米と分量の水と昆布5cmを入れて1時間置く。⑤昆布を取り除き、塩小さじ1、酒大さじ1、レンコンを加え混ぜ、炊き上げる。⑥お茶碗に盛り、梅肉を真ん中に、青シソを散らす。

秋彼岸会法要

9月22日(土)  
 寄席 午後1時～ 祖師堂  
 法要 午後2時～ 祖師堂  
 ※詳しくは3面をご覧ください。



第57回 念仏と法話の会

10月10日(水)  
 受付開始 午後12時～  
 別時念仏会／法話／茶話会  
 【講師】群馬教区  
 長壽院 蟹和 秀顕上人  
 ※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

文化講演会

10月20日(土)  
 開場 午後2時半 祖師堂  
 開演 午後3時～  
 【講師】  
 郡上市地域史家  
 高橋 教雄(たかはし のりお)氏  
 入場料／無料／先着300名

M・ファン・デン・フックピア川サイトル

11月25日(日)  
 開場 午後1時半 祖師堂  
 開演 午後2時～  
 入場料／檀家2,000円・  
 一般5,000円／先着300名



発行 梅窓院  
 発行日 平成24年9月1日  
 発行人 中島 真成  
 編集 青山文化村  
 住所 〒107-0062  
 東京都港区南青山2-26-38  
 電話 03-3404-8447  
 F A X 03-3404-8436  
 ホームページ http://www.baisouin.or.jp/  
 E-Mail jodo@baisouin.or.jp  
 題字 中村康隆元浄土門主  
 総本山知恩院第八十六世門跡

平成23年度会計報告

自 平成23年4月1日  
 至 平成24年3月31日  
 (単位：千円)

■護寺費・年会費・墓地管理費

収入の部		支出の部	
護寺費・年会費として	77,379	浄土宗課金及び大本山宛志納金	3,654
		法要費(仏具・法衣・線香など)	34,922
墓地管理費として	30,054	修繕費(建物)	37,240
		修繕費(墓苑・境内)	191,422
梅窓院からの繰入金	189,168	人件費	22,502
		事務費(郵送費・コピーなど)	6,861
合計	296,601	合計	296,601

昨年度より会計報告を、本紙に掲載させていただいております。ご確認を宜しくお願いいたします。

平成24年度 後期 仏教講座のご案内

梅窓院では10月より平成24年度 後期 仏教講座を開講します。講師は前期より引き続き、阿川先生、新井先生、勝崎先生、林田先生、本林先生の5名の先生方でお送りいたします。どうぞお気軽にご参加ください。全講座▶午後6時～8時 受講料▶無料 場所▶祖師堂

講 題／お経を読む

講 師／阿川 正貫 先生(浄土寺住職 大正大学講師)  
 ●第1回… 10月2日(火) 四誓偈(『無量寿経』より)  
 ●第2回… 12月4日(火) 歎仏頌(『無量寿経』より)  
 ●第3回… 2月19日(火) 仏身観文(『観無量寿経』より)

講 題／永観の『往生講式』を読む

講 師／新井 俊定 先生(天然寺住職)  
 ●第1回… 11月9日(金) 『往生講式』第一 発菩提心門  
 ●第2回… 12月18日(火) 『往生講式』第四 念仏往生門  
 ●第3回… 1月29日(火) 『往生講式』第六 因円果満門

講 題／大乘仏教を読む

講 師／勝崎 裕彦 先生(香蓮寺住職 大正大学仏教学部長・教授)  
 ●第1回… 12月13日(木) 法華経の魅力  
 ●第2回… 1月10日(木) 法華経の構成  
 ●第3回… 2月14日(木) 序品第一の教え

講 題／法然上人のみ教え —『選択集』を読む—

講 師／林田 康順 先生(大正大学准教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺副住職)  
 ●第1回… 11月12日(月) 『選択集』第4章 —廃助傍の三義について—  
 ●第2回… 1月21日(月) 『選択集』第5章 —念仏利益について—  
 ●第3回… 3月11日(月) 『選択集』第6章 —念仏留教について—

講 題／ブータンから学ぶ幸福のカタチ

講 師／本林 靖久 先生(真宗大谷派僧侶 大谷大学・佛教大学講師)  
 ●第1回… 11月30日(金) 祭礼と世界観  
 ●第2回… 2月1日(金) 王政と民主化  
 ●第3回… 3月1日(金) 仏教と人生観  
 ※詳細は同封のご案内をご覧ください。

我が家の宝物!

ちゃん(1才9ヶ月)

投稿者より

毎日ご先祖様に手を合わせています。娘3人、孫7人、ひ孫8人です。  
 は1才5ヶ月の頃ご先祖様の前にひざまずいて何をお願いしているのかわかりませんが、手を合わせておりました。健康で元気に育ってほしいと思います。明るく笑いのある家族が私たち老夫婦の何よりの宝物です。(曾祖母様)

編集部より

ご先祖様に手を合わせる習慣、素晴らしいですね。

前列右が ちゃん(ひ孫)  
 とお母様の さん。後列が ちゃんのおじい  
 ちゃんの さんとおばあちゃんの さん。

お写真大募集!! お孫さんと一緒のお写真と推薦者のおいちゃん・おばあちゃんのコメント(30～150字程度)を青山文化村までお送りください。お孫さんの名前、年齢も忘れずに。(お送りいただいたお写真は返却できませんので予めご了承ください)掲載させていただいた方には梅窓院煎餅を差し上げます。

〒107-0062 港区南青山2-26-38 青山文化村「我が家の宝物」募集係